新潟市議会議員　西区選出
田村 要介
議会活動報告
令和4年3月　かなめ通信第21号

令和4年度始動

まちの活力を取り戻す

中原市長「全力を挙げる」

感染防止と経済社会活動の両立へ

ロシアに対する抗議決議

1か月半に及ぶ2月定例会が閉会し、新年度予算が成立いたしました。年明け早々に第6波が急拡大をし、本県もまん延防止等重点措置が適用されるなかでの議会となりましたが、無事に全審議を終え令和4年度予算が成立したことをご報告させていただきます。

今会期中、ロシアによるウクライナへの侵略戦争が始まりました。様々な報道を通じ常軌を逸した非道を目の当たりにし、強い憤りと怒りを覚えます。市議会においても、全会一致で抗議決議を可決いたしました。

2年以上におよぶコロナ禍を通じ全世界が苦しんでいる中、世界中に冷や水をかけたプーチン大統領を到底容認することはできません。一日も早い終結を切に願うとともに、我々も微力ではありますが、その解決に向けて行動を続けていきたいと思います。

今議会では私も半年ぶりの一般質問に立たせていただきました。今号ではその内容を中心に、加えて新年度予算の概要をご説明させていただきます。まん防が解除され、明るい兆しは見えるものの、日々の暮らしを取り戻すまでもうひと踏張りのようです。日頃の皆さまのご協力に心から感謝申し上げ、議会報告をお届けします。

田村要介

ロシア連邦によるウクライナ侵略に抗議する決議

ロシア連邦は、去る2月 24 日にウクライナへの軍事侵攻を開始し、子供を含めた多くの一般市民が犠牲になっている。

ロシア連邦による武力攻撃は、ウクライナへの重大な主権侵害であり、国際社会ひいては我が国の平和と秩序、安全を脅かし、かつ明らかに国連憲章に違反する侵略行為である。また、子供をはじめとした一般市民を犠牲にする蛮行は、国際人道法を犯す行為であり、断じて容認できない。

我が国をはじめとする国際社会は、緊密な連携の下、この暴挙を一刻も早く抑え、世界的な緊張と対立の連鎖を防ぐべく、あらゆる外交努力を行うべきである。

新潟市議会はここに、ロシア連邦によるウクライナへの攻撃や主権侵害に対し厳重に抗議の意を表するとともに、ロシア軍を完全かつ無条件で即時に撤退させるよう、国際法に基づく誠意ある対応を強く求める。

以上、決議する。

令和４年３月３日

新潟市議会

令和4年2月定例会 一般質問

中原丸1期目 最終年の市政運営

田村：第6波の長期化や物価の高騰、ウクライナ情勢など地域経済への影響とまん延防止等重点措置の解除についての市長の見解は

中原八一市長：感染症の収束が未だ見通せない状況であるが、世界的なサプライチェーンによる原材料の調達不安や資源・燃料価格などにより幅広い業種の経営に影響が及んでいる。加えてロシアへの経済・金融制裁の拡大により企業活動の先行き不透明感が増すなど、地域経済への更なる影響が懸念される。

こうした状況下において、まずは現在実施しているワクチン接種に全力で取り組むとともに、感染状況を踏まえた経済対策を切れ目なく展開し、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図っていく

まちづくりの好機を逃さぬために

田村：前市政が残した拠点性の向上という難題に向けて大きくかじを取る場面が既に到来している、これに乗り遅れてはならないと考えるが市長の見解は

市長：新潟駅の60年ぶりのリニューアルに向け、駅周辺整備事業が進み、6月には在来線の全線高架化が完了するなど、まちづくりの大きな転換期を迎えている。

本市が都市間競争を勝ち抜き、人口減少時代を乗り越えていくため、この転換期がある意味最後のチャンスであるという強い思いをもってまちづくりを進めている。こうしたビジョンや方向性を「選ばれる都市」により市民に示し、その実現に向けて「にいがた2㌔の覚醒」を取りまとめた。千載一遇のチャンスと捉え、本市の明るい未来につながるよう、全力を挙げて取り組んでいきたい。

新年度予算に対する市長の思い

田村：新年度予算について、政局に絡め恣意的とも取れる報道があったが、私は全くそう捉えていない。コロナ渦なか、奇をてらわず、かじ取りを慎重にしつつ、大きな課題の解決に向けた布石を打ち始めた予算と捉えているが、市長の見解は

市長：最優先にとりくむべき、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と経済社会の再興にしっかりと予算計上したうえで、将来を見据えた課題にも投資を行ったことで、幅広くバランスの取れた予算編成ができたものと考えている

市政1期目3年間振り返り

田村：前市政からの継承について、様々な課題について丁寧に検証しプロセスを踏んで独自の方向へと進めてきたと考えるがどうか

市長：市民の声に耳を傾け、財政については集中改革を、事務事業の見直しにあたっては社会情勢の変化や事業の役割を検証するとともに、丁寧に説明をするように指示を行っている。

こども医療費助成の拡充については、安心して子どもを生み育てられる新潟の実現に向けての大きな一歩となると考え、課題を検証し、集中改革の効果を見極めながら議論を重ね、2回の拡充に繋げた。今後も市民視点を第一に考えた市政運営を心がけ、より良い方向へ進めたい

必要なときには躊躇なくかじを切る

田村：前市政からの変化を求める声を踏まえ、事業・施策を見極め一定の区切りをつけること、少し強めにかじを切ることも必要ではないか

市長：市民の意見に真摯に向き合い、私なりの結論や成果を出してきたつもりだが、社会経済情勢の変化ふまえつつ、その効果や役割について不断の見直しを行っていく。必要な時には新たな方向へ躊躇なくかじを切り市政を前に進めていきたい

本市女性初の副市長の誕生について

田村：副市長の女性登用については、市長就任時から言及されており、市長自らが今後の女性活躍について大きな幹を示したことから、市全体の人事が活性化することを望むが如何か。

野島晶子新副市長

市長：副市長の職は、積極的に私の意向を踏まえて政策判断や重要な企画を行うことから、ともに市政をけん引する重要なポストである。このような考えのもと、喫緊の課題であるコロナ対策のほか、今日的な行政課題が解決できる人材として野島理事を登用した。人物本位での登用を行った結果として、初の女性副市長となったが、本市における女性活躍を一層推進していく上でも大きな役割を果たしてもらえるものと期待している。

質問ⅡⅢⅣは裏面へ

議場での質問がご覧いただけます

令和４年３月
第２１号
発行
新潟市議会議員
田村要介
西区五十嵐中島4-23-8
TEL　025-378-0592